



Issue on June 1, 2014

丸りころ

VOL.44

発行所：大森学園同窓会
大田区大森西3-2-12
大森学園高等学校内
お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
FAX 03(3766)0314
Mail：info@moriko-kai.jp
URL：http://www.moriko-kai.jp/
発行責任者：大谷正勝
編集責任者：広報委員会
題字：山崎正男先生

米澤正倫 理事長インタビュー 大森学園の礎、中小企業が創立した徒弟学校を振り返る

1

就業と勉学を両立させた
大森機械工業徒弟学校

——大森学園はどのようにして、この大森の地に誕生したのでしょうか？

米澤理事長 のちに初代校長となる私の父、米澤勇作が、この大森の近辺に工場を構えたのが、大正14年だと思えます。その頃はまだ、大森にはあまり工場がなかったようですが、昭和になってからだんだん増えてきました。軍需産業が盛んになってきて、多くの中小企業や、親企業の下請けの工場がたくさん大森に誕生しました。

大森の中小企業といってもさまざまで、たき上げの職人さんが工場を作ったところもあれば、東京職工学校（今の東京工業大学）のような学校出身の方が工場を経営することもありました。私の父もそうでした。そういうところでは独自に従業員教育ということを行っていたわけです。そんな中で、技術教育について研究をしている団体や研究機関の方々とも、交流があったと聞いています。

日華事変が起こり日本が戦争に突入した昭和12年以降、戦争が激しくなると同時に、各種の工場での生産も増えてかなり忙しくなってきました。そのとき一番大変だったのが、従業員の確保ということですね。生産を上げるには従業員を増やす必要がありますが、まず大企業が新たな人材を確保してしまうわけです。それまでは各工場がばらばらに縁故を頼って人材を確保したりしていました。しかし中小企業は伝手も狭い範囲に限られてしまうこともあって、思うように人材は集ま

らないという状況だったのです。

その当時、大森の町工場が集まっている機械同志会というものがありました。地元中小企業の交流団体というか親睦会のようなものです。私の父がその機械同志会の会長をしていました。そこで従業員確保のために、



初代理事長像 製作／友沢正彦氏 昭和三十四年三月全・電気科卒

魅力のある人材募集方法はないだろうかなどと、話し合うようになったそうです。

——そこで米澤勇作先生を中心に、多くの中小企業が協力して大森工業徒弟学校の基礎が作られたわけですね？

理事長 機械同志会を中心に、従業員を教育する学校を創ろうじゃないかという話が広がりました。ただ最初から正規の工業学校を作るのは難しい。当時の正式な学校は文部

省認可ですから、規則や基準が厳しい上に施設なども揃えなければなりません。そもそもと基準が緩く、中小企業や町工場などの協力企業が支える各種学校的な徒弟学校を発足する。一方で協力企業は、学校で学べることを条件に応募してきた生徒を、優先的に就職斡旋してもらい採用する。そういう組織を作つてはどうかとなったのです。

このようにして大森機械工業徒弟学校が誕生しました。その生徒を募集するさいに、学校構想の中核となった工業技術教育の研究を行っていた方々が、各都道府県の今でいう教育委員会の人たちとの伝手を使って、高等尋常小学校（当時は中学校がなく、尋常小学校を卒業して2年間の高等尋常小学校でした）の卒業生に、生徒募集を行ったわけです。——当時は主にどちらの地方に生徒募集を行ったのでしょうか？

理事長 一番多く集まったのが東北地方でした。特に岩手県、秋田県、青森県といった地方から多くの生徒が応募してきました。その背景としては、子供たちが親元を離れて自立して生活して、そのためには働く場所を求めていた時代だったということ。しかし勉強もしたい。当時、地方には働きながら通える学校はほとんどありませんでした。地方では学校の数そのものが足りなかったですから、徒弟学校という形でも就職して親元から独立し、勉学しながら技術も学ぶことができるということ。大変魅力があったわけです。それで募集をしたところ最終的には数百人の応募があつて、徒弟学校の第一期生として昭和14年には四百数十人が入学しました。



入学にあたってどのような選考を行ったのかは、残念ながら資料が残っていません。ただ、それぞれ協力企業に就職し、同時に徒弟学校の生徒になったわけです。

——どうしても勉強したい学童が徒弟学校に集まってきたわけですね。

理事長 徒弟学校に入学した子供たちは家庭環境もそれなり高い家が多かったようですし、勉強のレベルもできる子供が多かった。例えば当時の学力10段階評価で、徒弟学校に入った子供たちの平均が7〜8だったといえます。今でいう5段階評価で4前後が平均ですから、かなり学力レベルは高いですね。できる子は特待生並みの学力がありました。保護者層も、かなりレベルの高い方々が揃っていて、中には地方の学校の校長先生がご自分の子供を徒弟学校に受験させたということもあつたそうです。

——徒弟学校の創立に協力された中小企業は、どれくらいあつたのですか？

理事長 後に私が調べたところでは、62社ぐらいでした。詳しい資料が戦争で学校ともに焼失してしまったものですから、わからないことも多くあります。

そのときに一番問題になったのが、学校

の運営を支える協力工場（企業）の体質です。特にそれぞれの経営者の考え方ですね。各工場

場で寄宿舎を持ち、子供たちにきちんと食事を与えて生活をさせ、きちんと学校に通わせるというような、学校教育に相応しい環境を整えられるかどうかです。中には「自分たちが儲かりやいんだ、子供たちの教育なんか二の次だ、働き手が欲しいから協力団体に入つたんだ」という考えかたの経営者もいたそうです。発足にあたり協力工場として相応しいかどうかを見極めて、学校の理念に賛同できない方はお断りすることもあつたといいます。それで残つたのが62社だったわけです。

——徒弟学校の生徒は、全員が協力工場の寄宿舎で生活していたのですか？

理事長 協力工場がそれぞれ寄宿舎を作ることが原則だったのですが、それが間に合わなかつたところもありました。そこで学校にも寄宿舎を作ることになりました。

ところが、開校までに寄宿舎の完成が間に合わず、池上本門寺の部屋を借りたり、満蒙開拓団が発前に使う宿舎を借りたりして、最初の数か月をしのいだようです。大方の寄宿舎が完成したのは、昭和14年の夏ごろにズレ込みました。その後はそれぞれの協力工場の寄宿舎と学校内の寄宿舎で子供たちは生活したようです。そういう意味では第一回の子供たちは苦労があつたようです。

第二回、昭和15年の入学では、学校が完成し体制が整っていて、各協力工場の寄宿舎に収容しきれない子供たちは、学校内の寄宿舎に入つて学んでいたようです。

——入学する生徒たちの待遇には、かな

り気を使われていたんですね？

理事長 食事なども、どの寄宿舎に入つても当たり外れなく公平になるようにしていました。親元を離れてくる子供たちに、少しでも惨めさや不平等感を味あわせないように、できるだけ平等な待遇ができるように腐心したんです。そこで徒弟学校の中に給食を作る設備を造りまして、朝昼晩の3食分を貫して作り、各寄宿舎におかずを大きな器で運んでいました。ただ寄宿舎までの距離はまちまちなので、遠いところはおかずが冷えてしまったということもあつたようですが。私もその給食を運ぶのに付いていったことを覚えてます。私の家の工場は学校のすぐ側でしたので、まだおかずは暖かかったですね。

給料も徒弟学校に在校している間は、60数社のどの工場に所属していても、同じにしたようです。働く時間も同じで、学校に通う時間には就業時間の中に含まれるとしていました。そういったことを協力工場と契約書を作り、保護者の方の代表と雇用者である中小企業の代表が同席して取り交わしていました。ちなみに協力工場の代表は私の父でした。また保護者の代表の中に竹之下久蔵という方がいて、この方はのちに、東京教育大学体育学部の主任教授になられたかたです。

——食事も給与も公平で同じとは、斬新な体制ですね。

理事長 中には部の協力工場の経営者がコスイ考え方をして、同じ金額の給料を出すと約束していたのが実際には払わなかつた、とい

うこともあつたそうです。ただ子供たちは学校で、同郷出身者同士でそれぞれの会社の情報交換をするわけです。そういう意味でも学校というのは勉強するだけじゃなくて楽しいところだったと、後に聞きました。

その情報交換の中で、「給料がおかしい」という話が判明したこともあり、その子供たちが「じゃあストライキやろう」となって、その寸前で規定通りの給料を払うなど待遇が改善された、なんてこともあつたそうです。

——当時としてはかなり先進的だったんじゃないませんか？

理事長 東京大学の教授で技術教育史を専攻なさっている原先生（東京大学教養学部の原正敏先生。のちに千葉大学教育学部教授）が、東京大学に入られる前から技術教育史を調べており、日本全国の技術教育、中学校や高等学校、大学、それから徒弟学校のような専門学校にまで及ぶ研究をされてました。当時、このような現場と勉強とを一体化させた教育を行っている学校というのは、大変珍しいとおっしゃっています。大森機械工業徒弟学校の考え方や、中小企業が集まって創立しその後も協力したという運営方法や制度は、原先生が調べた中でも他に例がないようでした。

子供たちもこの工場で働きながら、疑問に思つたことを学校に行つて先生に質問する。そこで学んだ理論的なことを、実際に現場に行つて応用してみると感じました。とにかく、親元から離れてきた子供に惨めな想いをさせやいけないということが根底にありました。彼らが胸をはって、充実した生活

をおくることができるよう、技術を覚え、学校をちゃんと卒業するという高い目標をも

2

文部省認可の工業学校へと変貌

—— 徒弟学校は3年間続き、その後工業高校に代わります。そこにはどんな経過があったのでしょうか？

理事長 それは、徒弟学校という形では、魅力がだんだん無くなっていったという現実があったのです。時代が進んで、重需産業優先となり大企業が事業を拡大するにあたり、大勢の従業員募集を行いました。子供たちを就職させるのに「大企業は安定性もあり、給料もいいよ」などと甘い話もして宣伝・勧誘したんです。徒弟学校の入学者も、最初は希望者が殺到していたのですが、そういった大企業の人材募集に負けてしまい、だんだんと希望者が減ったんですね。

また文部省認可でないということも、大きなネックでした。学ぶ子供たち自身も、文部省認可でないため正式な学歴にならないということに疑問を持ち、物足りなさを感じるようになっていったのです。それを補うためには、やはり正式な学校にしくちやならぬということ、徒弟学校から文部省認可の工業高校に切り替わったわけです。

—— その時に「大森工業高校」と名前が変わるわけですか？

理事長 まだ戦争中ですから「大森工業学校」ですね。昭和16年の10月14日が、文部省の認可日になっていますね。だから最初は本校の創立記念日は10月14日だったんです。

つ。そういう子供たちを育てることが、徒弟学校の一番の目的でした。

私がこの学校に勤めたときはそうでした。しかしその後、4月15日に代わりました。

どこの学校も文部省の認可以前に各種学校の前身があるわけです。例えば慶応義塾のような寺子屋的なものからスタートした大学であっても、創立の精神は寺子屋時代から始まっているんだといいます。だから「文部省認可が創立記念日じゃない、徒弟学校が始まった時が創立記念日なんだ」ということですね。うちの学校の教育の根源というのは徒弟学校であり、親元を離れてきた子供を単なる労働力として採用したわけじゃないんだと。子供たちが自立できるように就職させ、どこの協力企業に就職しても給料は同じ、食事も勉強にかける時間も同じです。しかもどこの工場に所属しているかは関係なく、学校は暖かく平等に生徒を迎えるということが、創立の精神です。

なぜ創立記念日を4月1日でなく15日としたのかは、理由は聞いておりませんが、恐らく米空軍機の空襲で4月15日校舎は何も



残らず焼けました。そして戦争も終り工場の仕事はなくなり、協力者は全員離散し工業高校の再建は理事長米澤勇作一人に押しつけられました。徒弟学校設立よりもはるかに厳しい苦しい仕事となったわけで、この苦しみを忘れないために定めたのだらうと思います。

—— 徒弟学校時代は、どこの管轄だったんでしょう？

理事長 徒弟学校時代の3年間は、内務省が出した徒弟養成令という制度にもとづいて運営していました。警察も内務省ですから、本校の最初の管轄省庁は警察だったんですね。もともと管轄とは言っても、そんなにうるさいものではありません。届を出す先が警察だったというだけです。今のよう義務教育ともなれば大変ですけど。

—— それが文部省認可になって、いろいろ変わったわけですか？

理事長 大森工業学校は、当時の文部省が出した青年学校令というものに準拠して運営していたんですね。認可時に提出したごく分厚い書類が今も残っています。これだけの設備が無ければダメとか、予算決算、備品、いろいろなものが必要で、それが記されています。後に原先生が国立公文書館で調べたとき、本校が徒弟学校から変わった時に出した書類の原本を見つけて、それをコピーしていただいたものを頂戴いたしました。今も本校に保存してあります。あれだけの書類を作るのは、当時でも並大抵の仕事量じゃなかったと思いますね。そういう意味でも、徒弟学校と文部省認可の工業学校では、世間からの信用もだいぶ違ったと思います。

昭和17年の4月に徒弟学校から文部省認可の学校に切り替わって、そのときまでの3年間に徒弟学校に入学した方々で進学を希望した人は、一斉に大森工業学校の第2本科(夜学)に編入しています。そして大森工業学校になつてから卒業した人の多くは、卒業後に兵隊に行かれています。彼らは大正13、15年生まれでね、昭和19年に卒業したら20歳になるわけです。20歳になれば当時は兵隊に入りますから、卒業と同時に兵隊に行つた方が多いでしょう。

—— その当時に卒業した方々については、名簿が残っていないかったり、二重に記載されたりして、今でも混乱することがありますね。同窓会からの通知ハガキが2通届くとか。

理事長 実は徒弟学校としての名簿は、空襲で焼けてしまったので、ほんの一部しか残っていません。名簿が残っているのは、徒弟学校から大森工業学校の第2本科の夜学に移行した人の名簿です。この方々が卒業したのが、昭和19年の3月になるわけです。この時はまだ第1本科の方は2年生で、そちらの卒業生はいないんです。

大森工業学校は5年間の過程で、徒弟学校を卒業した生徒たちは4年生に編入した形になっているわけです(※注 高等尋常小学校で2年、徒弟学校で1年就学の計算)。昭和19年3月の卒業生名簿は、たまたま偶然に焼け残ったんです。空襲で学校が燃えた時に宿直でいた先生や生徒が、とりあえず書類などを持ち出して防空壕に投げ込んだらしいのですが、たまたまその中に残ってしま



た。これは写しじゃなくて原本が残っています。残念ながら第2本科の卒業生の分しか卒業名簿がない。徒弟学校を卒業したっていう方はたくさんいらっしゃるんですが、だれど名簿が残っていない。

私が事務として入った昭和30年から40年ころは、「徒弟学校を出たという証明書をいただけませんか」という方も何人かいらっしゃいました。確かめようがない。ただ徒弟学校の生徒であれば、協力工場に勤めてなければいけないわけです。そこで当時の校長先生と相談して、どここの協力工場に勤めていたかなどを聞き取りして、それがあっていたら卒業証明書を出していました。「徒弟学校にいた時はどこの会社ですか？」と聞いて、その会社が協力工場の名簿があれば、「大森工業高校の前身の大森機械徒弟学校を卒業したこと」を証明する」と書いて証書を数回出しました。もともと徒弟学校の場合、卒業証明書をだしてもなんら違反はないんですよ。文部省の認可になる前ですから。だから、卒業してなんの資格にもならなかったのですが、た

だご本人の満足感というか気持ちですね。
—— その混乱が、今にまで続いているわけですね？

理事長 名簿が二重になっているというのは、終戦までは5年制だったことが原因です。ところが戦後に学校制度が変わって、1年から3年が中学ということに分けられました。それで4年から5年は、それに1年足して3年制の高等学校にしたわけです。

制度が変わった時に1年から3年にいた人は、別の中学校になったわけですから3年で卒業します。それでさらに3年たつと高校を卒業することになって、結果、卒業名簿が中学と高校の二つできてしまったということに

3

戦後の混乱を超えて工業高校へと改変

——ところで、徒弟学校を支えた協力工場制度は、戦後どうなったのですか？

理事長 終戦になった時に、大森周辺の工場はほとんどが焼けてしまいました。残った工場や企業もすぐには仕事がないから、従業員はほとんどが退職。というより、辞めてもらうことになりました。

働くところがないから子供たちはいなくなる。そうなれば学校への協力を続けても意味がない。徒弟学校の設立に協力し支えてくれた中小企業の団体は、この機会に解散しようということになったようです。

元々60社以上の中小企業の考え方もいろいろあったでしょう。それが戦争の空襲で焼けて、戦後になってから歪みが噴出してきたわけですね。それまで各経営者は、自分た

なります。その名簿を一本化しようとしたのですが、できませんでした。中学卒業後に別の学校に行った人もいましたから。

そこでのちに私が名簿の整理をしたときに、全部調べて中学の卒業名簿の備考のところに、高校の卒業年度も書き加えたんですよ。高校に上がった生徒でも、昼間の全日制に進んだ人、定時制に行った人、中には中学を卒業して何年かしてから定時制に再入学したという人もいました。一本化はできなかったで、せめて大森工業高校に進んだ人は、それを調べて使ってくださいれば、今の二重名簿での重複発送も解消できると思います。

ちに入ってくる収入を削つてまで、学校の方に協力を納めていました。しかしそれは面白くないという人もいたのだと思います。「子供を勉強させて一人前の自活できる人材に育てるなんてことはしなくても、働いて稼いでくれればそれでいいんだ」という、自己中心的な考えの経営者も大勢いたんですよ。その考え方や状況はそれぞれですから。いつかは歪みができて崩れてしまうというのは、止むを得ないんじゃないかと思えます。

—— そんな状態で、新たに大森工業高校がスタートしたわけですね？

理事長 戦後のどさくさにはいろいろあったようですよ。特に痛手だったのが、学校運営をする事務などを行っていたしっかりと力量のある方がいなくなりましたことですね。

一時は、学校の先生が授業の傍らで事務を行っていました。ただ、授業との掛け持ちでお金の管理までするわけですから、目が届かないことも多々あったようですよ。それで「きちんと事務ができる人がいないとダメだ」となって、私に白羽の矢が当たって、本校に勤めるようになったんです。

大森工業高校では、昼間の本科は終戦時

にまだ卒業生はいなかったんですよ。卒業生がいて社会で活躍していれば、その伝手を使って何かと行うこともできたでしょうけど、いないものだから、それもできませんでした。そういう部分を初代校長である私の父がすべて抱え込んで、学校の基盤を作っていました。ですから、だからこそ、自分の土地を手放して、交換に学校の敷地を確保したこともあったようですよ。様々な運営面でも苦労していました。

例えば、戦後しばらくは、体育の先任の先生がおらず、そのかわり体育学部の学生が教えに来ていたんです。おそらく私の父が、東京教育大学にいた竹之下先生に頼んで、学生を派遣してもらっていたんですよ。今は学生が教育免許なしで授業したら、処罰されますけど、昔はそれが通った時代だったんですよ。昭和30年より前の話ですから。

このように本校では、昭和の戦中から戦後にかけて、大森機械徒弟学校から大森工業学校をへて、大森工業高等学校へと形態を変えてきました。それでも子供たちに対する愛情のかけかたというものは、昔も今も変わらないですね。もしかしたら本校の建学の精神が生まれた徒弟学校時代の方が、より細やかさがあつたんじゃないかと思えますね。

や

瑞宝小綬章



副理事長 井上皓司先生

平成26年5月13日、国立劇場大劇場で勲章伝達式が行われ、学校法人大森学園副理事長井上皓司先生が『瑞宝小綬章』を叙勲されました。この度の叙勲の栄に浴されたことにお祝い申し上げますとともに、先生の方々の活躍をお祈り申し上げます。

同窓会活動へのお誘い

会長 大谷正勝



会員の皆様におかれましては益々ご健勝の

ことと存じます。

もりこう会（以下本会と称す）は本年、発足61年目を迎えました。人間に例えますと還暦を過ぎ、身も心も新たに第2のスタート台に立つたと云うことでしょうか。

これからも本会が大森学園卒業生の心の拠り所のひとつとして、未永く安定的に継続していくためには、会員の皆様の変わらぬご支援が不可欠でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、この度は本会活動の概要をご説明いたし、ご理解をいただくことも諸活動の輪に一人でも多くの皆さまにご参加いただきたく、小文を認めてみました。

本会にご承知のとおり、会則に則り次のような活動を行っております。

- 一つは通常総会、懇親会の開催であり、二つ目は母校と会員間をあるいは会員相互を結ぶ会報の発行、ならびに情報を出来るだけ速やかに提供することを目的に設置したホームページ（HP）の運営であります。加えて後輩生徒さんの教育活動へのご協力等があります。これまで恙無く諸活動を継続できましたのも、学園各位ならびに会員の皆様の温かいご支援ご協力の賜物と、役員一同改めて感謝申し上げます。

今後、活動の更なる活発化をはかるには、会報HPなどの充実を図るとともに、会員の皆さまに本会諸行事に対する関心を高めて頂けるように、工夫と努力をしいかなければと思っております。それに加えて会発展に最も大切なパワーとなるのは、会員の皆様お一人おひとりのお力添えでございます。

今後とも「もりこう会」へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

ここで少し横道にそれますが、同窓仲間とはとの問いかけに対し、一般には後の人生や信条等に拘わらず、在学時代に育んだ友情、先輩後輩間での損得抜き信頼感、あるいは師弟の親愛の情などに根差した人間関係で繋がった人々を指すものと、私なりに思っております。それゆえ同窓生間では、仲間意識も手伝い肩書き立場に拘わらず、フランクに付き合えるのが大きな魅力のひとつではないでしょうか。

母校はご存じのとおり校舎、施設等とともに充実、周辺地域も横を流れる内川の穏やかな流れは以前と変わりませんが、水質は一時よりさらに改善されたような気がします。また通学に利用した京急線は高架となり、最寄りの駅も立派になりました。

この様に母校周辺は大きく変貌したところ、以前とあまり変わらないところと様々ですが、本会行事をキッカケに、オイ、お前と呼ばえながら母校を訪ね、思い出一杯の頃にタイムスリップするのも、宜しいのではないのでしょうか。

母校に足を運ぶことは儘ならぬと云う方には、会報を通して会員間の交流を図る方法は何でしょうか。在学中の思い出や近況等を、本会事務局宛にお送り下さい。限られた紙面ですが、スペースの許す範囲で会報掲載に繋がりたいと思っております。

このように様々な機会を捉え、既に諸活動に参加されている仲間の輪に気楽に加わって

みませんか。

最後になりましたが、会員各位の益々のご活躍を祈念いたしますとともに、引き続き本会へ温かいご支援とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

3回の東北訪問

校長 畑澤正一



「もりこう会」の皆様には日頃より大森学園高等学校の教育にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。今後も本校の教育向上のため卒業生の方々の多大なるご支援を期待するところです。

会報発行に際し校長挨拶のスペースを学校の近況をお知らせする機会にさせていただきます。創立以来75年。工業科のみの学科編成から通科設置9年、普通科共学7年が経過しました。今年度のクラス編成は、1学年11クラス（普6・工5）、2学年9クラス（普4・工5）、3学年9クラス（普4・工5）。在籍数は年により変動はありますが、27クラス1,080名の定員に対し29クラス

1,079名でのスタートになりました。今回は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援活動についてお知らせします。震災直後には福島県双葉町から埼玉県加須へ避難されている方へ急遽車いすとの要請があり、早速車いすメンバーの奮闘で整備再生された12台の車いすを3月31日に送ることができました。「空飛ぶ車いす」として東南アジアへ送る分を一時使用していたべくことになりました。また、初期不良で販売できない発電機能付きラジオが本校に届けられ、おもちゃの病院メンバーが故障箇所を修理し、70台を気仙沼の避難所に送りました。その際修理担当のおもちゃの病院メンバー以外に女子生徒が中心になり一つひとつ梱包し、幾らかでも励みになればとの思いを込めたメッセージも同封しました。生徒会では義援金の募金活動や大田区からの依頼で仮設住宅に送る食器類の募集・梱包・発送作業や節電の呼びかけなど「今自分たちでできることは何か」真剣に向き合っており、取り組むことができました。6月には被災地に車いすを届けるために在校生・教職員・地域の方等160名で「合同修理会」を行い、38台を南三陸に送ることができました。

震災のあった年から毎年被災地訪問を実施しています。最初は保護者の方から高校生が被災地に行くことに危惧する意見もありましたが、「生徒の安全を最優先に」のもと、平成23年冬、24年夏、25年夏の3回実施することができました。

第1回 23年12月22日～24日。参加者は生徒16名・教員他5名、他2大学ボランティア14名の合計35名。訪問地は仙台・女川・南三陸・気仙沼・大船渡・一関のボランティアセンターや仮設住宅、ホーム等。車いす寄贈数は14か所に62台と1保育園にXマスプレセント。車いす修理活動は一関の施設にて58台。尚寄贈した車いすは本校を含め、全国11の工業高校と1大学から提供されたものです。

第2回 24年8月26日～28日。参加者は生徒17名と教員他8名の合計25名。訪問地は大船渡・気仙沼・陸前高田・栗原・南三陸・女川。車いす修理活動は大船渡・栗原・女川にて55台。この時期には車いすの手当ては広く行われ、要請はそれほど多くはない状況で寄贈は3台でした。

第3回 平成25年8月20日～22日。参加者は生徒18名、教員他5名と蒲田ロータリークラブ。車いす修理に代わって漁業支援に内容が変わったが、支援と言うよりもむしろ体験的要素が大きく貴重な勉強をさせて頂きました。活動内容は宿泊地の廃材撤去作業、漁協直販所の塩蔵わかめの芯抜き、漁場で使用する錘（土嚢）づくりとロープ修繕。そして特別の計らいでホタテ・ホヤ・カキ養殖場の復興現状視察。

毎回津波被害の現場を案内し説明してくれたのはご自身も被災した方でした。想像を絶する被災現場と、被災者本人のお話に各々の心を強く打つものがあつたと思えます。学校では学べない素晴らしい勉強ができました。今後でもできるだけ継続できればと考えています。最後に毎回各地区の多くの皆様のサポートで実施できたことに感謝いたします。

同窓であること

教頭 安達 毅



昨年、野球部は東京大会ベスト8という好成績を収めました。当時「もう1勝」「もう1勝」と勝ち進む中で、学校も多くの卒業生の方々からメールやお電話で温かい声援や激励を頂くことになりました。皆さんの中にも「いやあ、母校がさあ・・・」「後輩たちが頑張っていてさあ・・・」「そんな思いをご家族や職場の皆さんに伝えられた方もいらっしゃる事でしょう。(今年の3月には『東大現役合格者』も誕生しました。どうぞ皆さん1周の方々に思う存分「いやあ、母校がさあ・・・」を連発してやって下さい。)

今学校教育に『グローバル社会を生き抜く力を身につける事』が求められています。多くの学校がこれを「イコール英語」と捉え様々な取り組みをしている訳ですが、その一方で、一歩世界に出てマイノリティー(少数派)になった時に本当に必要な力は「なんでも食える」「どこでも寝られる」「自分に自信を持つ」事である。そういった見方もあります。私たち

はマイノリティーを心地よいとは思っていませんので、いつしか生活している環境下で周りの人々の中に共通項を探すこととなります。仕事先で知り合った相手が同窓生であった。そこに共通の先生が存在した。それはとてもエキサイティングな瞬間です。公立高校だと10年もすれば恩師どころか顔見知りの先生は一人もいなくなってしまうので、同じ先生を知っている確率はほとんどありません。ところが森学ではどうでしょうか。20年経っても「同じ先生を知っている」、「同じ先生に教わった」なんていうことが結構あるのです。うちの卒業生は何かの機会で学校を訪ねて来ることが他校より多いと思います。仕事の相談や資格のことなど先生を頼つてきてくれるのはとても嬉しいものです。そう考えると、『学校の存在自体が同窓の集う場である』とも言えます。

同窓会に顔を出すのはかつたらい、偉そうなのはかりでつまらないと思うかもしれませんが、同窓会で得たネットワークを仕事や人生に活かすといった損得勘定ではなく、あの先生はどうしたかな？校舎が新築されて全然変わってしまったけれど、ちょっと顔を出してみようかなと出かけて来ませんか？そこで出会った人同士は、同じ学び舎で学んだという共通の事実で豊かな思いが広がるかもしれません。今私は教員としてこれからの社会を担う青少年の育成に携わっていますが、皆さんも卒業生として間接的であれ在校生を応援し子どもたちの成長に関わっていく事もできます。

『もりこう会の中に豊かな人生へのタネが隠れている』決して言い過ぎではないと思えますがいかがでしょうか。

加藤 三郎

同窓生の皆さん、こんにちは。それぞれの分野にて活躍の事をご推察致します。

私も大森学園高校(当時は大森工業高校)に奉職し早四十年が過ぎました。教員になり、二年目初めての担任の時(昭和五十年四月)には右も左も解らず、入学した生徒と共に一緒に色々なことを学びました。特に当時の生徒さんの親には大変お世話になった事をつい先日のように思い出します。



あの先生は今

その後、五十六年・五十九年・六十年・平成元年・四年・六年のそれぞれ三月に卒業生を送り出しました。それぞれアルバムをめくると、あるいは当時の話をすると直ぐに思い出されますね。それからは私にとっては最後の卒業生を送り出す卒業式(平成十一年三月)において点呼の名前の部分(しゅんすけと呼ぶ所)を(ゆうすけと自分の子供の名前を呼び)間違えた事がありました。早々に謝恩会の席上にてお母さんには謝りました。非常に温厚なお母さんでした。一昨年度かな?本人が来校した時にそんな話をしたら卒業出来たのは「担任の先生のおかげだよ!」と今でも言っていると話されたのには教

員冥利だなと感じましたね。また、昭和五十二年四月より約二十数年間卓球部の顧問として、最初の頃は夏の合宿(学内にて教室にて寝泊り)の時には朝五時に起床し体操を行いその後本門寺(妙見堂付近)まで一緒に走り、その階段約百二十段位あつたかなーそこをうさぎ跳び、あひる、手押し等生徒にとっては辛い運動をしました。当時は運動しながら常に声出し(フアイト)もしていたので。時には朝が早いので階段の近所の人から『うるさい』との苦情を受けたこともありました。

その当時に卒業した卓球部の生徒さんが、昨年本校の学校説明会に娘さんと一緒に参加、終了後当時の話もしました。彼は「すいか」が大嫌いで、でも当時の食事当番の顧問の先生は残さないで食べる事を強要(食べ物の大切さを教える為)にしました。公立ですと教員は学校に長くても約十年、転勤により居なくなりまして。私学なら四十年後来校しても居るという。これも私学(大森学園)の良い所だと思います。

私も卒業生の皆様やそのご両親(特にお母さん方)・また学校関係者の支えにより無事勤務することが出来ます。今までのご厚情に感謝申し上げます。卒業生の皆様も時間がありましたら是非ハード面・ソフト面共にチェンジした大森学園を見学して頂きますようご案内申し上げます。

田村 達朗

私が大森学園に勤めるようになったときに顧問として受け持ったクラブは、フッターフォーゲル部でした。学生の時は大学の気の合った仲間と北アルプスや奥秩父、丹沢などの山を登っていました。山岳会に入って正式に登山を勉強したわけでもないのですが、少し心配ではありましたが、かし先輩の顧問の先生もいて、クラブ活動で好きな山に登れるのですから、喜んで引き受けさせてもらいました。

また、生徒が重い荷物を担いでくると、楽に登れるのだからと私も思いました。しかし、甘かったです。なぜなら、生徒はすぐにバテるからです。するとそのままでは山頂にたどり着けませんから、他の顧問の先生と分担して、生徒の荷物を担がなければなりません。バテる生徒が出るたびに自分の荷物は重くなります。当てがはずれました。でも、無理もありません。生徒は山登りが初めてなのです。それに登山などという奇妙な趣味を選んでくれた生徒は大事にしなくてはなりません。クラブの存続にかかりました。

さて、登山の思い出というところ、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。辛い登りのあとの山頂からの眺めでしょうか。頭上に澄み渡る青い空。皆さんと輝く太陽。眼下に広がる白く光る雲海などでしょうか。でも、今思い出そうとしても山頂からどんな景色が見えたのかはつきりと思いつき出すことができないのです。登った記憶はあるのですが、ではどんなことをよく覚えていたのかというと、悪天候のことです。風に吹き飛ばされそうになって歩いた縦走路。雨のためにうづむきながら歩き、足元しか見なかつた山道。風と雨で首筋に伝わる雨水。人生、楽あれば苦ありということ。山は教えてくれました。

大天井岳は北アルプスの前衛で、槍、穂高岳の眺めが素晴らしい、人気のある山です。中房温泉から入山し、燕(つばくる)小屋までは樹林帯の急登です。このあたりから天気が悪くなり霧が出てきました。樹林帯を抜けると風も出てきました。登れば登るほど風が強くなります。山頂に着いた時には体が飛ばされそうな強風になっていました。テント場には何張りかのテントがありまして、でもテントが張れる状況ではありません。テントを出しただけで、風にふっ飛ばされそうです。近くの山小屋に逃げ込むことにしました。夜中からは雨も降りだしました。一夜明けても天気は同じです。これから先の吹きさらしの稜線を歩くことなどできません。下山です。荷物をまとめて小屋の外に出て、テント場を見てみると、風と雨でポロポロになったテントが一張り立っていました。我々は何んの眺望を楽しむことなく、ただ白い景色の中を下っていくだけでした。



あの先生は今

「三大悪天候はというと、一、大天井岳(おてんしょう)だけと読みます。」

二、北岳(きただけ)

三、悪天候はというと

日本第二の高峰です。言うまでもなく山頂からの三百六十度の展望、見上げる大崖壁、高山植物が咲くお花畑。登山者の憧れの山です。

北岳には、甲府から南アルプススーパー林道をバスで二時間以上かけて終点の広河原に行き、早川（大井川の源流です）にかかる吊り橋を渡りキャンプ場に入ります。その日はテントを張るだけで、翌日からの登山を楽しみにさつさと寝ました。ところが、夜中に雷が鳴り出します。キャンプ場なので落雷の心配はないのですが、山で聞く雷鳴の音は迫力があります。そのうちに土砂降りの雨が降り出しました。雨水がテントに入つてこないように雨具を着て、外に出てテントの周りに溝を掘ります。それだけでびしょ濡れです。朝になっても雨は止みません。今日も一日キャンプ場に停滞です。ひまを持て余してもテントの周りをウロウロするだけです。三日目も天気は良くありません。山頂の天気はもっと悪いので、強行しても無理でしょう。下山決定です。

再び、長い時間バスに揺られて甲府の駅に着きました。駅に着くと日差しがでてきました。下界はいい天気です。我々は濡れたものを乾かして、学校へと帰っていきま

このようにして、一メートルも登ることなくその年の夏合宿は、終了しました。三、白馬岳（しろうまだけ）夏でも残る大雪渓、登山道の横のお花畑とて、大人気の山です。猿倉（さるくら）までバスで入り、白馬尻（しろまじり）小屋から本格的な登山になります。最初は雪渓の上の急登で雪渓が終わると傾斜はやや緩くなり、道の左右はお花畑です。一日目は白馬山頂直下の白馬山荘のテント場で泊ります。生徒がバテたのはお約束です。天気が崩れそうなのでその日のうちに山頂を往復してきました。夜になると予想通り雨が降ってきました。山の上なので風も加わります。また雨具を着てテントの周りに溝を掘り、石でテントが飛ばされないよう補強しましたが、無駄でした。テントの下には川が流れています。もうじつとして居るほかはありません。近くに小屋がありますが夜なので動けません。ただひたすら夜が明けるのを待ち続けます。その時間の長かつたこと、明るくなるとすぐに山小屋に避難しました。ほかの登山者も続々と避難してきてすぐに満員になりました。小屋とテントでは天国と地獄です。のんびりしながら明日の天気図をかいてみると自分たちの

頭上に梅雨前線が横たわっています。これで明日の予定は決まりです。下山です。翌日、予想通り雨と風です。朝食をとりさつと下りていきます。一、三百メートルも下ると風も弱くなり安全圏です。下の方を見るとこの悪天候にかかわらず、続々と登山者が登ってきました。悪い天気も山の楽しみのうちのつです。「頑張れよ、心の中でエールを送りました。誤解のないように言つと、全部が悪天候だったのではありません。これらの山は、ちゃんとよい天気の時にも登っています。さて、悪天候が多かつたのはきちんとした理由がありました。運が悪かつたのではなく、顧問のうちの一人が最強の雨男だったので、名譽のために名前を明かしませんが。あれから四十年（正確には三十九年だけでも）、もう山登りはやめてしまいました。しかし、毎年の健康診断で次々と悪いところが見つかる年代に突入しました。一度やめた山登りですが、これから健康のためにも再開しようかなと思っています。とりあえずは高尾山から始めるか。あの山は山登りのほかに、もう一つの楽しみがあるから・・・。

卒業生便り

佐々木 亮一

3年普通科1組 H26 3月卒



私は中学の頃、あまり勉強せずに3年間を過ごしてきた。そのため大学受験は真剣に取り組もうと思った。

1年のはじめの頃は出された課題を終わらせることが主体でSSCに行っていたが、夏休みから受験に向けて数学は青チャートで授業の復習、英語は単語のテストで数学・英語の基礎を固めることにした。単語帳は2年にあるまでに1周終わらせた。はじめはなかなか覚えることができなかつたが、2周・3周と繰り返し返すうちに定着し、2年の夏には模試で手ごたえを感じられるようになった。

2年にながってからは、放課後SSCに行き20時まで勉強し、帰宅後は寝る前にさらに2時間学習し、翌日の通学途中の時間

を用いて朝テストの学習をする、という生活を送った。そして、春休みには、これまで志望していた一橋大学から東京大学への受験を意識し始めた。ただ、東京大学は受験に必要な科目が多く、「一日48時間ほしい」と思うほど、時間が足りないと感じた。

3年にながってからは、模試を多く受けるようになったが、いずれの模試も十分な結果を出すことはできなかった。夏休み中も思い通りの勉強はできず、その後も成績は伸び悩んだ。センター試験まで残り3か月という状況で合格可能性は20%未満だった。しかし、先生からの励ましの言葉と1年次からつけていた勉強する習慣のおかげで、机に向かい続けることができた。そして、本番のセンター試験では、88%という自己の記録を大幅に更新する得点をとることができた。

東京大学合格は先生・先輩方からの協力なしでは有り得なかつた。先生方からは「今、先輩はこういう状況だ」と情報を得ることができたし、SSCで黙々と勉強する先輩方を見て受験に対する緊張感を味わうことができた。また、部活の先輩からの話も受験に對しての意識を高めることにつながった。

漫画家を目指して

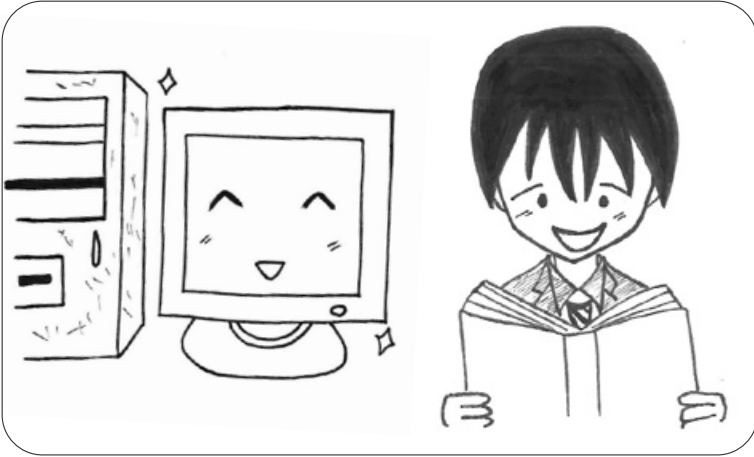
池田 瑛吉

平成21年 3月卒 情報技術科卒業 (ペンネーム 星ノ崎ナギサ)

私は大森学園高等学校で情報技術を基礎から学べたことにより、今ではインターネットでマンガも掲載されています。そしてこの会



報という大変すばらしく伝統的なものに自分の描いた漫画で仕事が出来たことで私は中学生の頃からの夢であるマンガ家に正真正銘なることができませんでした。これからも私は自分が必要としてくれる人一人の為に1コマの漫画を書けるようなプロになりたいです。



訃報



須田先生を偲んで

常任理事 佐藤雄之

須田先生が四月にお亡くなりになりました。ここで私の不確かな記憶で申し訳ありませんが追悼の意味で書かせていただきます。先生は府立工業学校電気工学科（現首都大学工学部）を昭和十七年に卒業され現在の富士通に入社されましたが直ぐに応召され陸軍通信兵としてインドネシアのセレベス島に派遣され現地で終戦を迎え捕虜として二年間現地で生活を送られました。私が聞いたところでは金網もなく現地の人と緒の生活で、自給自足の毎日だったそうです。その中で機嫌の良いときに出る絶品の歌「ノーマニサオパ・ヤンプニヤ」（可愛いあの娘）を覚えたようです。復員後富士通に復職した後昭和二十五年に本校に奉職したそうです。私が森工に入学した頃はバリバリの硬派の教員で他にも深野先生や高山先生が居り新入生は出来るだけ

顔を合わせない様にできるだけ避け通っていました。その後私も縁が会って本校に勤める事になり先生の人となりや学ばさせて頂きました。先生は意外と繊細な心の持ち主で私たちの意見も道理があれば誰彼の区別なく取り入れて貰える所がありました。

そんな所が全国でも十指に数えられる程早く本校に汎用性の電子計算機が備えられた結果だと思えます。また富士通時代の上司だった小林大祐氏が昭和五十年代に社長になっており本校の計算機が隣りにレベルアップしていきました。他にも一年生の遠足の途中で富士通の沼津工場の見学などもさせて頂き最新の電子計算機の工程をつぶさに見させて貰いその後の授業で大変参考になりました。他にも就職状況が厳しい時期に富士通関連の企業に何人も生徒が紹介され入社しています。

また先生は大の釣り好きで良く大森海岸や金沢八景、磯子等から釣り船で連れて行って貰いました。その後も新任が入つて来ると必ず連れて行かれたもので船酔いに遭って一日中船で寝ていた教員もいました。最後に先生は同窓会の顧問を最後まで続けられ陰に日向になつて支えて来たことです。これは目には見えませんが大変な、苦勞な仕事だったと思います。以上取り止めの無い文章で申し訳ありませんが須田先生の安らかなご冥福をお祈りして思い出を書かせて頂きました。

書かせて頂きました。もりこう会副会長

勝島憲三

須田先生からは、電気一般の授業をうけました。クラスメイトが体育祭で支給された、手ぬぐいを粗末に扱ってひどく叱られて、この先生は、怖い方だと思ひ知らされました。

授業中に召集令状が来たときの話をされ、お父さんと2人で旅行に行き、あまり会話もなかったようですが、戦場に行く子への愛が感じられました。

輸送船一隻で戦地に向かうとき、新鋭艦と老朽艦で先生は、老朽艦にのり、途中新鋭艦は、敵の攻撃で沈没し、先生は、無事助かったそうです。運の強さをかんじます。

先生が、野球部部长時代の話で、打順を決めるのは、喧嘩の強いやつが4番になったと、面白おかしく話されていたことが思い出されます。

また、長いこと我々同窓会の最高顧問をされ協力していただきました。心よりご冥福お祈り申し上げます。

平成25年度中に旧職員
の岡野克明先生、城石好
幸先生、倉田隆延先生の
3名が永眠されました。
ここに謹んでご冥福をお祈
り申し上げます。

岡野克明先生

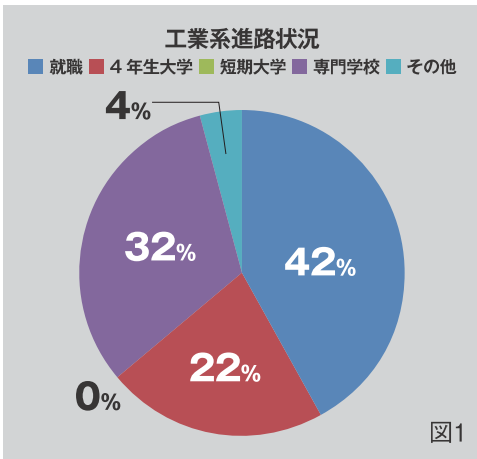


城石好幸先生



倉田隆延先生





よりこの会の同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝で、各方面でご活躍のこととご推察申し上げます。進路指導部より、平成25年度卒業生の進路状況をご報告させていただきます。

今年は全体で323名が卒業しました。就職35%、4年制大学30%、専門学校29%という結果でした。工業科は267名の生徒が卒業しました。就職42%、4年制大学22%、専門学校32%という結果でした。(図1)普通科は56名の生徒が卒業しました。就職0%、4年制大学72%、専門学校14%という結果でした。(図2) 主な進学先は表1をご覧ください。



今年度は東京大学文科一類に合格者が出ました。東大文一といえば日本の文系大学としては最高峰です。今後彼はどのように成長して

| 大学名 | 文系 | 理系 |
|--------|----|----|
| 東京大学 | 1 | |
| 電気通信大学 | | 1 |
| 東京海洋大学 | | 1 |
| 山形大学 | | 1 |
| 早稲田大学 | 2 | |
| 上智大学 | 1 | |
| 学習院大学 | | 1 |
| 明治大学 | | 2 |
| 中央大学 | 6 | 2 |
| 成蹊大学 | | 1 |
| 芝浦工業大学 | | 1 |
| 明治学院大学 | 1 | |
| 合計 | 7 | 10 |

表1

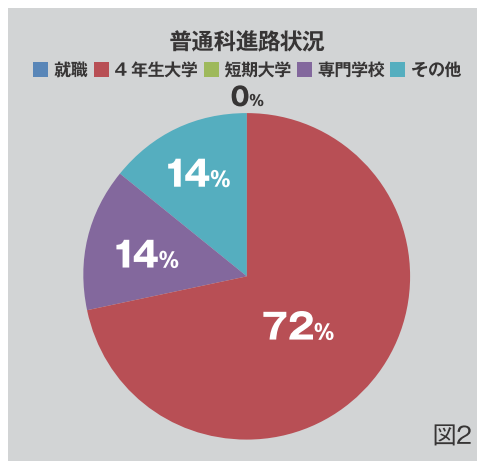


図2

大森学園とのご縁は、兄が卒業生で学生時代にソーラーカーや省エネカーに取り組んでいました。それを見て私もソーラーカーや省エネカーを作りたいと思い大森学園に入学しました。その後の活動は、先輩方の記録を抜くつもりで取り組んでいました。卒業後もその気持ちは変わらず今も生徒と共に新たな記録を目指しています。

そして、現在ソーラーカーはバッテリーを一新し、今まで使っていた鉛バッテリーから、リチウムイオンバッテリーになり、よりコンパクトで大容量になりました。しかしその年車体が

いくのでしょうか。将来の活躍に期待したいと思います。1年浪人した生徒からは、東北大、明治大学、東京理科大学などの合格報告がありました。現役生、浪人生ともに昨年に引き続き進学実績は右肩上がりです。就職でも、公務員では警視庁、神奈川県警、一般企業では日産自動車、関電工、JFEスチール、ジャパンマリンユナイテッド、東京メトロなどへの合格者が出ています。

今年度も、生徒のための進路指導部として、生徒たちの夢実現の手助けをしていきたいと思っております。

母校で活躍する卒業生

高橋 慶太

機械科実習助手 平成18年3月卒
九年前に大森学園を卒業し機械科実習助手として勤めさせていただいています。



り良い記録が出るよう挑戦しています。

最後に、秋田県大潟村での大会が八月九〜十二日で行われます。省エネカーの方が九月二七・二八日に行われるので応援よろしくお願います。顧問への冷やかしても構いませんので遊びにも来てください。

破損する大きなクラッシュをしてしまい、翌年には一度造り直しました。更に造り直すのならフルサイズに(ソーラーパネルが一分増える)ということで、より多くの発電が可能になりました。

大会は一昨年より秋田県大潟村で行われるWGCという大会に十年ぶりに出場しています。それまでは三重県鈴鹿市にある鈴鹿サーキットで行われる大会に出場していましたが、二日間2ヒートで行われていた耐久レースが一日1ヒートだけに縮小したためこちらの大会に参加することになりました。今までの鈴鹿の大会と違い三日間ということで、より過酷になりました。更に今年より、今までの半分ほどのバッテリーになるなどレギュレーションが大きく変わり、生徒にはより一層高度な整備技術が求められるようになりました。

省エネカーは、近年インジェクション(燃料噴射装置)が主流化し、自動車部も三年前より取り入れていきます。他のチームとは違いインジェクションを制御するコントローラを自作しより良い記録が出るよう挑戦しています。

最後に、秋田県大潟村での大会が八月九〜十二日で行われます。省エネカーの方が九月二七・二八日に行われるので応援よろしくお願います。顧問への冷やかしても構いませんので遊びにも来てください。



クラブ活動報告

●野球部



昨年度野球部は昭和51年の準優勝以来38年ぶりに東京大会ベスト8に進出しました。多くのOBの皆様の応援、ありがとうございました。心より感謝いたします。

秋は予選で日大豊山は1・3、春は創価に2・3で敗れ、残念ながら都大会出場を果たすことができませんでした。

現在部員数は夏の活躍の影響もあり、一年生が50名近く入部し、二年20名、三年12名

マネージャー6名の80名を超える人数で活動しています。

昨年6月22日(土)に学校にてOBによる壮行会、そのあと日航ホテルにおいてOB会が行われました。今年も7月5日(土)に日航ホテルにてOB会が行われます。OBの皆様の多数のご参加お待ちしております。

●剣道部

今年度は3年生3名、2年生2名、1年生3名の8名で活動し、春季大会、IH予選、支部大会、新人戦の4大会に出場しました。生徒たちは経験者と初心者が混じった中で練習を重ねました。経験豊富な先輩が、これから伸びるという初心者に指導を行っていました。今年度は大会で実績を上げることができませんでしたが、来年度は今年度以上の人数の新入生を迎える見通しです。生徒達にはより一層稽古を重ね、技術面でも精神面でも成長してもらえればと思います。

●女子バレーボール同好会

女子バレーボール同好会は昨年度発足したばかりの同好会です。普通科であるということもあり、勉強と練習の両立はできるのかなどの不安を胸に抱えながらのスタートとなりました。部員も少ないためチーム練習とまではいきませんが、少人数でもできる練習方法は何か、自分たちの技術を向上させるために

は何か必要か、などを常に考えながら練習に励んでいます。昨年度は部員が6人に満たないために試合に出ることはできませんでしたが、これまでの練習の成果を出せる場を少しでも増やしていければと思っています。

●ロボット研究部



ロボット研究部の主な活動内容は、各種大会への出場と小学生対象のものづくり教室の開催です。

夏休みに行われる、「電子ロボと遊ぶアイデアコンテスト」は、レゴマインドストームを使用した大会です。レゴマインドストームは、レゴブロックがベースになっているので、初心者にも作りやすくなっています。

大会の課題は、毎年六月に発表されます。二十五年度の課題は、段差の上にある赤と青のボールを回収してゴールするというルール

で、どちらのボールを回収するかは、大会当日に指示されます。

本校のロボットは、段差を登る技術が高く評価され、審査員特別賞を受賞することができました。

今年度も、各種大会において、入賞を目標にして、日々活動しています。

●チアリーディング同好会

チアリーディング同好会は、3年生1名・2年生3名・1年生1名の計4名で1年間活動してきました。全員が普通科特進クラスなので、放課後や休日の限られた時間での活動でしたが、短い活動時間を最大限活用し、集中して練習に励みました。

平成25年度の主な活動内容としては、4月の新入生歓迎発表会から始まり、7月の野球応援、体育祭・学園祭でのダンス発表、さらには地域のイベントでもダンスを披露することができました。とくに、体育祭で披露したダンスと野球部の応援については、練習日や練習時間を増やし、力を入れて取り組みました。

今年度は1年生が6名入部しました。野球応援や体育祭・学園祭でのダンスの完成度が高くなるよう、練習に励みたいと思っています。まだまだ部員数が少ない同好会ですが、一生懸命活動しています。精一杯頑張りますので、応援よろしく願っています。

●バドミントン部

バドミントン部は、今年の3月に、これまで40年間顧問を務めてこられた山口高司先

生が定年退職され、4月から新しい顧問を加え活動しています。

昨年度は36名で活動してきました。そのうち、2名が女子部員です。

主な試合結果としては、インターハイ都予選男子団体戦東ブロック32位、大田区区民スポーツ大会個人戦女子ダブルス4部優勝です。

部員の多くが高校からバドミントンをはじめた者ばかりですが、この1年で伸び、戦力となる期待がもてる者も出てきました。試合中、自分たちが押されている状況の中でも声を出すこと・どんなシャトルも拾いに脚を出す貪欲さが課題です。

今年度は女子の新入生部員が入り、初めて高体連の団体戦に出場することができました。男女共に、少しでも良い結果をお知らせできるように、部員一同頑張っていきますので、今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

●テニス部

平成25年度のテニス部は、3年生の引退まで約25名で活動しました。新1年生に経験者が多くはありませんでした。しかし、日々努力し経験者や上級生と遜色ない選手も増え始め、クラブ全体への良い刺激となりました。公式戦で1つでも多く勝利することに加え、集団としての成長も目標に、校外のコートや学校で練習に励んでいました。最後の団体戦では3回戦出場が一番良い成績でしたが、その時点での実力は出せたようです。今年度も4月中旬から個人戦、5月中旬

には団体戦が控えています。過去最高の結果が出せるよう、1人1人の心身の成長を促していきます。今後とも皆様の応援、よろしくお願ひ致します。

●男子バスケット部



部員：3年生・13名（マネージャー1名）、2年生・4名 計17名
25年度大会結果：7支部大会第3位入賞
新人戦3回戦敗退

現2・3年生のチームに今年の新人部員に即戦力が数名入り1人はスタートで出ています。全学年で力を合わせ4月の関東予選・5月のIH予選で結果が残せるよう日々練習に励んでいます。

●女子バスケット同好会

部員：2年生・9名（マネージャー2名）
25年度大会結果：新人戦2回戦敗退



現在は3対3までしか練習できません。今年度は多くの新入部員が入り選手が増えるので大会でもっと勝てるように練習していきます。次回いい報告が出来るよう努力していきます。

●ハンドメイド同好会

ハンドメイド同好会がこの大森学園にできてから早くも4年の月日が経ちました。おいしい料理を部員たちが楽しそうにつくる姿に、見ているこちらも胸が温かくなります。毎年、模擬店の出店や手芸・被服作品の教室展示、舞台発表などで大忙しの学園祭では、今年もOGが応援しにきてくれました。模擬店で、生地から手作りしたチュロスやタピオカジュースを販売するには、少々人手不足で满身創痕の部員たちではありますが、お客さんから「おいしい」と聞くと、改めてやりがいを感じ、気力と喜びが湧いてくるようです。

まだまだ発展途上の同好会ではありますが、物作りを通して、人との縁も作りながら日々穏やかに活動を行っています。今後ともハンドメイド同好会をよろしくお願ひ致します。

顧問 小宮 沙織

●卓球部

イベントホールで週5日練習に励んでいます。今年の部員は3年が7人、2年生が8人、1年生が5人の合計20人の大所帯で活動していました。

今年から顧問が2人一気に変更になったので、最初は教員、生徒共にとまどっていました。最初は徐々に落ち着きました。卓球マシンや卓球ノートの導入など、やるからには勝ちたい、強くなりたいという向上心にあふれています。また練習メニューを生徒たち自身で改良するなどの工夫、個人の課題を見つけたことが、大変喜ばしい成長です。これからも、卓球を通して部員たちが成長して、よりよい人生を歩んでほしいと思っています。

今後ともご支援の程宜しくお願ひ申し上げます。

●囲碁将棋部

囲碁将棋部は、現在、3年生が3名、2年生が5名で、週三回、放課後を利用して活動しています。

活動内容は主に対戦形式で、先輩後輩関係なく、戦つて必ず、実力を上げるために感想戦をしています。感想戦とは、対戦後に初手から終局までの一部を再現して着手の

善悪や最善手などを検討することで、上達への早道と言われています。

将棋を主に行いますが、囲碁、オセロ、チェスなど幅広くやっています。昨年の学園祭では第一回校内オセロ大会を開きました。大会にも出場しています。将棋の個人戦や

囲碁の昇級大会に参加しています。

クラブ活動はいつも明るく、活気にあふれています。大会では一つでも多く勝てるように向上していき、強くなれるように努力していきたいと思います。

今後とも宜しくお願い致します。

●レスリング部

4月 ジュニアオリンピックカップ4名出場(横浜文化体育館)

3S1小林秀平 第3位・2G2高橋海寿々 第3位

クイーンズカップ2G2高橋海寿々準優勝

5月 関東大会7名出場(山梨県市民体育館)

3E1村上 翔 優勝・3S1小林秀平 優勝・2G2高橋海寿々 優勝

3E1場原崧皓 第3位

7月 アジアアカデット出場(モンゴル・ウランバートル)

2G2高橋海寿々 優勝(2連覇)

8月 全国総合体育大会(長崎県復興アリーナ) 4名出場

2G2高橋海寿々 優勝
全国グレコローマンスタイル選手権大会(大阪府金岡体育館) 6名出場
10月 全日本女子オープン出場(静岡県

三島市) 2名出場
2G2高橋海寿々 優勝

国民体育大会(東京都文京区茗荷谷) 3名出場

12月 全日本選手権大会「天皇杯」(代々木体育館) 出場

2G2高橋海寿々 第6位

2月 関東選抜レスリング選手権大会(山梨県市民体育館) 6名出場

2G3中村和暉 第3位・2E1仁平滉哉 8位

クリッパンレディーオープン(スウェーデン国クリッパン)

2G2高橋海寿々 出場

3月 全国選抜選手権大会(新潟県市民体育館) 2名出場

2G3中村和輝・1回戦フォール勝ち2回戦目善戦するが、判定負け(相手の選手をフォール迄持ち込んだが逃げられ判定負けとなる相手の選手優勝) 2E1仁平滉哉・善戦するが判定1回戦負け

部員総勢10名各試合に向かつて一致団結して頑張っております。

今年も応援宜しくお願い致します。

●プラスバンド部

プラスバンド部は昨年度、1年生12名を迎えた合計22名で活動をスタートしました。おかげさまで昨年度も、学校行事に加え地域でのボランティア演奏や大田区の演奏会など、1年を通じて様々な活動の場を得ることができました。昨年度の活動の様子を簡単に紹介させていただきます。

4月の入学式から活動がはじまりました。先輩部員の必死の勧誘により新入生12人が入部。6月の体育祭では恒例のドリル演奏を披露。前年度まで指導して下さった中林先生がいなくて、3年生を中心に試行錯誤を重ね、なんとか全校生徒の前で披露することができました。7月、ベスト8まで勝ち抜いた野球部の応援は、部員全員の心に残ったものとなりました。その後、8月の吹奏楽コンクール、大森町商店街のサマーフェスタ、9月の学園祭、10月の福祉作業所のふれあいまつりと続き、1月末にはプロの演奏家も参加する大田区吹奏楽連盟の特別演奏会に参



加。そして例年は3月の卒業式で演奏して1年間の活動が終了・・・となるのですが、昨年度は3月末に「第1回大森学園定期演奏会」を本校イベントホールにて行いました。以前、大森工業高校時代に行われていた行事ですが、現在の部員にとっては初めての試みでした。OB・OGはじめ多くの方々の協力もあり、なんとか無事に終えることができました。

昨年度もプラスバンド部の活動を通じて、部員たちは様々な年代・職業の方々との関わりの中でたくさん学ぶことができました。多くの方がプラスバンド部の活動を支えてくださったことに感謝いたします。今年度も、皆さまに喜んでいただけるような演奏活動をしたいと思っております。

プラスバンド部 石川 和弘

●柔道部

25年度は55kg級3名、60kg級2名、66kg級3名、73kg級1名、81kg級1名、90kg級1名という過去最も体重の軽いチームでスタートいたしました。体重無差別の団体戦では非常に不利な状況になってしまったためこの4月に行われる先鋒、次鋒、中堅までが73kg級以下で団体編成をしなければいけない関東大会予選が他の大会よりもハードなく戦うことができます。本校は昨年度シールド権を取得しており、2回戦駒場東邦高校を5-0で勝利、続く3回戦も農大二高校を4-1で快勝。準決勝で敗れたものの支部大会4位という好成績をおさめることができました。個人戦でも55kg級で大久保が

加。そして例年は3月の卒業式で演奏して1年間の活動が終了・・・となるのですが、昨年度は3月末に「第1回大森学園定期演奏会」を本校イベントホールにて行いました。以前、大森工業高校時代に行われていた行事ですが、現在の部員にとっては初めての試みでした。OB・OGはじめ多くの方々の協力もあり、なんとか無事に終えることができました。

強豪校に勝利し、支部優勝。都大会に団体個人ともシード権を得ることができました。都大会では団体戦ではよい結果が残せませんでしたが、55kg級大久保が東京都3位という大森学園での最高成績をおさめました。7月の東京都ジュニア選手権にも出場し、大学生も参加するレベルの高い試合でベスト8という結果を残すことができました。

夏以降は3年生が引退し、新チームは2年生が4名。1年生も軽量ながら粘り強い選手が多く期待が持てます。合宿も群馬へ遠征し関東近県から集まる強豪校と練習を重ねてきました。また、埼玉や千葉へ遠征を重ね、経験と場数を踏ませることを中心に練習を行いました。結果として10月に行われた東京都学年別大会では、1学年、2学年ともに東京都大会出場。11月に行われた支部新人戦では55kg級水谷が3位入賞など確実に力をつけてきました。

今後は新入生を向かえ、4月の関東大会予選、6月のインターハイ予選へと稽古に励んでいきたいと思っています。

今後とも応援よろしく願っています。

●陸上競技部

3年生3名、2年生4名で活動しています。少人数ではありますが、やり投・砲丸投・走幅跳・ハードル・中長距離・短距離の6種目に分かれて練習をしています。チーム競技では、リレー・駅伝に出場しました。昨年度は、400MH、やり投で東京都大会出場を決めました。今年度も1名でも多く東京都大会で勝負することのできる選手が増え

ることを願っています。また、リレーなどのチーム競技でも東京都大会出場を目指しています。今後とも応援をお願い致します。

●鉄道研究部



「全国高等学校鉄道模型コンテスト・四年連続受賞！」

鉄道研究部の活動に、四年前から取組んでいる鉄道模型コンテストがある。このコンテストは、与えられたボードに直線レールまたはカーブレールのどちらかを選択し、鉄道模型のジオラマを製作する大会で年々参加校が増え、全国の高等学校から昨年度は百十一校が参加した。(過去最高の参加校数) 本校は過去三回連続「特別賞」を受賞す

る事が出来、今年こそは上位入賞を目指して製作してきました。昨年のテーマは「工場地帯を走る鉄道の情景」をモデル化し、特に力を注いだ点は工場地帯の雰囲気などの様に再現すれば良いかという事でした。製作には部員五名が中心となり建物の製作や線路内の敷石や架線柱など、忠実に再現し工場地帯の雰囲気をウエザリングという技法で塗装を施し完成させました。製作期間は四月から約五か月かけて作り上げ大会に出展しました。最近ではジオラマ製作するのに便利

な様に建物や、鉄道模型に関する部品などが購入でき、手軽に製作する事ができます。

コンテストに参加する各学校の作品はどれも力作ぞろいで、細部にわたり細かく模型で表現されています。上位入賞作品には技術力や作品を通して何を表現したのか、作品を見る人に訴える作品でなければ上位入賞は出来ないと思いました。会場は東京ビックサイトで毎年8月の夏休み中に開催され、二日間約二万六千人の来場者があり、コンテスト作品は来場者の投票も審査対象になっています。昨年度は女子校の参加が増え、女子が作る作品が上位入賞するなど、女子ならではの視点で製作した作品が目を見張りました。本校の作品は技術力や細部にわたって高い評価を受け「技能賞」に選ばれました。上位入賞を果たすことが出来ませんでした。百十一校の中から技能賞を受賞できた事は、製作した部員達、全員を褒めてやりたいと思います。

●自動車部

結果報告

●WORLD GREEN CHALLENGE 2013
ソーラーカーラリー(旧 W.S.R.秋田)

7月24日(水)〜27日(土)に自動車部が秋田県大潟村で行われたソーラーカーレースに2年連続、出場しました。1日約8時間を3日間走行する過酷な競技で車両・人にも耐久性が求められるレースです。今回、天候に恵まれず昨年より記録は伸びませんでした



が、25周625kmを走行しクラス4位になりました。また、周回数管理するラリーでは全クラス総合3位と表彰台にあることができました。

1日目 10周
総合 5位
2日目 10周
総合 5位
3日目 6周

総合 4位
合計 26周 総合 5位 クラス 4位
グリーンラリー 総合 3位
大会ホームページ
<http://www.wgc.or.jp/>

●Honda エコマイレッジチャンピオン2013

10月5日(土)・6日(日)に今年も自動車部が栃木県ツインリンクもてぎサーキットで行われた「Eコマインレージチャレンジ」『1』のガソリンの走行距離を競う』に出場しました。今回の大会で学校として27回目の参加になります。今回もオリジナルの燃料噴射制御装置をつけ大会に臨みましたが、車体や各部の調整が思うようにできず、記録を伸ばすことができませんでした。

グループII 高校生クラス 149台中
753km/ℓ 38位(キャブレター)
314km/ℓ 36位(インジェクション)
大会ホームページ
<http://www.honda.co.jp/Racing/emc/outline/national/>

応援いただいた皆さまに心からお礼申し上げます。より上位を目指して2014度の大会に挑みたいと思いまので、今後も応援よろしくお願ひします。

●バレーボール部

二十五年度 校友会活動報告
二十五年度結果
関東大会東京都予選 都ベスト16
インターハイ予選東京都大会 都ベスト32
関東私立高等学校バレーボール大会 Bプ
ロック3位

全日本選手権東京都大会 都ベスト16
東京都私学大会 都ベスト8
新人戦 都ベスト16
さくらバレー(全国私学大会)
出場(2勝2敗)

今年は、昨年よりも結果を出せるように

なりました。けが人もいる中で、ある程度の結果を出せたことは自信につながってくるのではないかと思います。新生年も入り、これから関東予選に向けて頑張っているところで。今以上の成績を収められるよう、日々努力していきたい所存でございます。昨年度で今までバレーボール部に携わっていた山下先生が退職致しました。今年は開催県が群馬県ということもあり、是が非でも関東大会に出場したいと思っております。OBの方々は是非足を運んで下さい。心よりお待ち申し上げます。

PS バレーボール部のブログです。よかったら見て下さい。
<http://blog.goo.ne.jp/ojimadesu/>

●放送・演劇同好会



昨年度から新しく発足しました同好会です。会員数は7名しかいませんが、お昼の放送をナビゲートしています。週5回の放送を目指して、日々奮闘中です。学園祭では初舞台「ハンバーガーショップの野望」を対面表現しながら演じました。台本・舞台製作や音響・照明まで手を出すことはできませんでしたが、いずれ地区大会に出場でき

きたら嬉しいですね。

●大森学園生徒会



毎年5月、中間試験の最終日に「生徒総会」が行われます。そこで新旧生徒会が交代します。大森西地区青少年隊で群馬県にある向井

千秋記念子供科学館のバスツアー・あしなが学生募金・ユバール駅伝の伴走サポート・東北被災地ボランティア・命のつどいサポート・大森西町内会のお祭り・福祉作業所のふれあい祭・ポレポレエゴ祭・大田ふれあい祭・車いすの修理会・開校小の桜まつりなど、地域の方々との様々なイベントに関わることができました。週に2回は毎朝8時から「あいさつ運動」も実施しております。体験やふれあいを通して、生徒たちの成長が感じられます。

顧問 増田 宇

●車いすメンテナンス

平成25年度、車いすメンテナンスは8名で活動を行いました。6月に本校で行った「車いす修理会」では、タイに31台もの車いすを寄贈しました。他にもスリランカなどの東南アジアに寄贈し、1年間で約70台もの車いす



を贈ることができました。この数字は本校での台数であり、神奈川工大へ行き、大学生と一緒に修理した車いすも100台以上あります。とてもよい経験ができたと感じています。

また、海外への寄贈以外にも一度、特別老人ホームでの修理活動も行いました。お年寄りと一緒に修理する楽しさ、ありがとうという感謝の声をいただくなど気持ちの面でも達成感を得られたと思います。

今年度も一つひとつの活動に精一杯取り組み、心身の成長を図りたいと思います。これからもよろしくお願ひします。



もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力のお願について

会長 大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

本年もここに関係各位のご協力により、会報 44 号をお手元にお届けすることが出来ました。

本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催等など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。

これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいります。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。

就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

平成25年度 もりこう会 決算書

(自:平成25年4月1日~至:平成26年3月31日)

収入の部

| 科目 | 予算 | 決算 | 差異 | 摘要 |
|-----------|------------|------------|-----------|-------------------|
| ①1 年生会費収入 | 1,260,000 | 1,260,000 | 0 | 300 円×12 か月×350 名 |
| ②2 年生会費収入 | 1,170,000 | 1,173,600 | ▲ 3,600 | 300 円×12 か月×326 名 |
| ③3 年生会費収入 | 2,746,800 | 2,746,800 | 0 | 700 円×12 か月×327 名 |
| ④寄付金収入 | 300,000 | 468,000 | ▲ 168,000 | 104 件 |
| ⑤受取利息収入 | 15,000 | 4,531 | 10,469 | 普通預金・定期預金 |
| ⑥過年度会費収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ⑦雑収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 当年度収入合計 | 5,491,800 | 5,652,931 | ▲ 161,131 | |
| 前年度繰越資金 | 4,992,054 | 4,992,054 | ----- | |
| 収入の部合計 | 10,483,854 | 10,644,985 | ▲ 161,131 | |

支出の部

| 科目 | 予算 | 決算 | 差異 | 摘要 |
|--------------|------------|------------|------------|---------------|
| ①設備補助費 | 0 | 0 | 0 | |
| ②行事補助費 | 150,000 | 150,000 | 0 | 学園祭補助として生徒会へ |
| ③課外活動補助費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 校友会へ |
| ④クラス会援助費 | 100,000 | 0 | 100,000 | |
| ⑤卒業記念品費 | 500,000 | 421,080 | 78,920 | 卒業証書ホルダー2年間分 |
| ⑥その他の補助費 | 100,000 | 0 | 100,000 | |
| ①会報発行費 | 1,200,000 | 1,029,601 | 170,399 | 会報発行・印刷・郵送料含む |
| ②総会費 | 400,000 | 357,420 | 42,580 | 懇親会費用 |
| ③OB広場 | 100,000 | 83,759 | 16,241 | 学園祭(同窓会広場費用) |
| ④会議費 | 200,000 | 170,739 | 29,261 | 役員会開催費用 |
| ⑤ホームページ維持費 | 100,000 | 78,960 | 21,040 | サーバー年間契約料 |
| ⑥交通費 | 300,000 | 226,000 | 74,000 | 役員交通費代 |
| ⑦事務局費 | 50,000 | 31,160 | 18,840 | 文具・切手代 |
| ⑧慶弔費 | 100,000 | 97,200 | 2,800 | 香典5件、生花代3件 |
| ⑨キャリアセミナー運営費 | 180,000 | 171,135 | 8,865 | 懇親会費 |
| ⑩拡大幹事会費 | 300,000 | 156,144 | 143,856 | |
| ⑪雑費 | 50,000 | 26,658 | 23,342 | 寄付金振込手数料他 |
| 予備費 | 100,000 | 0 | 100,000 | |
| ①同窓会維持積立金 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 当年度支出合計 | 4,730,000 | 3,799,856 | 930,144 | |
| 次年度繰越金 | 5,753,854 | 6,845,129 | ▲1,091,275 | |
| 支出の部合計 | 10,483,854 | 10,644,985 | ▲ 161,131 | |



ご協力ありがとうございました